

## 第4学年 国語科学習指導案

### 研究主題

どの子ども自信をもって書くことができる指導法の工夫  
～モデル文や文集「練馬の子ら」を活用して～

### めざす児童像

- 相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にし、段落相互の関係に注意して書くことのできる子
- 自分の思いや考えを書くための教材を意欲的に収集・選択し、進んで書こうとする子
- 書いたことを発表し合い、友達の考えを受け止めて更に考えることのできる子

1. 単元名 谷原小のよさを発信しよう

2. 教材名 新聞記者になろう

3. 単元の目標

◎新聞の特徴と作り方を知り、記事にすることを決めて、文章を書こうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

◎記事にすることを決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができる。

【書くこと】

○読み返して、必要に応じて修正することができる。【言語事項】

4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	・新聞の特徴と作り方を知り、進んで新聞の作り方を知ろうとしている。
書くこと	・書く内容を整理し、文章構成を考えたり、新聞記事の特徴や「使いたい表現」を使ったりして記事を書いている。
言語事項	・文章を読み返し、必要に応じて修正することができる。

## 5. 単元について

### (1) 児童の実態 意識調査より

設問	回答項目	平成24年 5月	平成25年 2月	平成25年 7月
国語の勉強は好きですか。	好き	26人	28人	29人
	まあまあ好き	42人	44人	47人
	あまり好きではない	20人	15人	16人
本を読むことは好きですか。	好き	70人	63人	63人
	まあまあ好き	13人	21人	26人
	あまり好きではない	5人	3人	3人
書くことは好きですか。	好き	36人	44人	49人
	まあまあ好き	35人	31人	33人
	あまり好きではない	17人	12人	10人
書くことの中で一番好きなことは何ですか。	作文	14人	7人	13人
	日記	29人	23人	16人
	詩	6人	12人	4人
	お話づくり	27人	35人	47人
	その他	12人	9人	12人

#### ◆考察

アンケート結果から、書くことが好き（まあ好き）と答えている児童は、1回目の意識調査から徐々に増え、今回の意識調査では全体の約9割まで増えた。書くことに慣れたことや「書けてうれしい」という実感がもてたこと、書いたものがみんなに紹介されたことで書く意欲が高まったことなどが要因である。しかし、まだ書くことがあまり好きではなく、苦手意識があったり、どうやって書けばいいかわからなかったりしている児童もいる。また、書くときに困っていることや教えてほしいことの設問では、好きと感じている児童の中にも、「書き出しが難しい。」「書くことが思い浮かばない。」などと感じていることや技術的に段落や句読点の使い方に不安を感じていることが分かった。

#### ◆学年の児童の実態

3年生の時は、楽しくお話づくりをしたり日記を書いたり書くことに多く取り組み、書くことに慣れてきた。4年生になって取り組んだ10分間作文の時間では、段落の分け方、句読点の使い方、常体、敬体など書く技能を学ぶことで、構成を考えながら書くことができるようになってきた。今まで、書くことが苦手な子や書けない子が、諦めずに前向きに取り組み、書けるようになってきている。また、学習したことを日記や行事作文に活用する姿も見られるようになった。

### (2) 単元設定の理由

見学したことや調べたことなどを新聞に書く機会が多い。しかし、新聞の特徴や書き方について学ぶ機会は少なく、どうやって書けばいいのかわからないまま書いている児童も多い。そこで、本

単元では、新聞の特徴や新聞らしい表現について押さえ、その特徴や表現を使って実際に新聞作りを行う。

また、新聞の特徴である報道文を学ばせたいと考えた。そこで、5W1Hを入れ、インタビューで分かったことや担当者の思いなどを簡潔にまとめて書く活動も取り入れることとした。

### (3) 学習材について

本単元では、まずは実際の新聞記事の文章から特徴を調べることにした。次に昨年12月に完成した新校舎のよさを取り上げ、「給食室に親子調理方式が導入」されたことを記事にした自作教材をモデル文として使用する。そこから新聞を書くために必要な構成や新聞記事の表現などを学習させる。

## 6. 主題に迫るための指導の工夫

### (1) 児童に興味・関心をもたせる単元計画の工夫

新聞を書くにあたり、「伝えたい」「知ってほしい」という思いを文章に書かせたいと考えた。そこで、本単元では「谷原小じまん」というテーマで新聞を書くこととし、昨年12月に完成した新校舎の施設や学校ならではの行事などを保護者や在校生に改めて伝えることで意欲を高める。

### (2) モデル文・共通教材の工夫

新聞記事は内容が多様なため、「使いたい言葉」をそのまま共通教材や個別教材で使用するの難しい。そこで、身に付けさせたい指導事項を以下の通り明確にした。

〈文章構成〉

見出し・小見出し	
初め	概要部分＝リード文（いつ・どこで・だれが・何をした）
中	・紹介　・詳しい出来事　・インタビューしたときの会話 ・担当者の願い
終わり	まとめ（今後のことや印象に残ったこと）

〈新聞記事の表現の特徴〉

- ① 文が短い　② 常体で書かれている　③ 「私」「ぼく」などの主語は省略されている
- ④ 体言止めが効果的に用いられている　⑤ 会話の表現が多様　⑥ 数字の扱い

以上のことを学べるモデル文を作成し、新聞記事に書けるようにした。

モデル文として、「給食室に親子調理方式が導入」されたことを新聞記事にした自作教材を使用した。実際に児童にとって親子調理方式が導入された事実は、初めて知ることであり、強い興味をもつと考えられる。そのため、取材を行い、わかった事実を伝えることは、児童にとって意義があると共に新聞作りへの関心を高めることができる。

共通教材には、現在建設中である体育館棟、プール棟について建設会社の方に取材したことを用い、現在の進捗状況や作業員・建設会社の人の思いなどを新聞記事にすることにした。